

N I Eの活用を視点においた各教科の資質・能力の育成を目指して

指定校2年次 小海町立小海小学校 井出 優絵

(1) 本年度のN I E活動の概要

小海小学校では、「かしこく きよく たくましく」を学校教育目標と掲げ、「学びを生活にいかす」「既習の学習内容をいかし、新たな学びを発見する」「よりよい生活や人間関係を、自主的に形成する」児童の育成を目指している。そこで、本年度の重点目標を「自分らしさを発揮し、自ら問い自ら学ぶ子どもたちの育成を目指して～ヒト・コト・モノを見つめて つながり 表現する～」と設定した。

研究指定校1年目である昨年度には、「N I Eの活用を視点においた探究的な学びの実現について」を研究テーマとして、総合的な学習の時間や各教科における探究的な学びの実現について研究を進めてきた。その成果として「自ら問いをもつきっかけ作り」「自ら学ぶ姿の育成に繋がるN I Eの活用」「各教科の基盤となる資質・能力の育成に繋がるN I Eの活用」についての成果が得られた。その一方で「新聞を活用することが目的ではない」「各教科の授業で新聞記事を扱うには教材研究が不可欠である」などの課題もみえてきた。

そこで本年度は「N I Eの活用を視点においた各教科の資質・能力の育成を目指して」を研究テーマとして、主に5年社会科、2年、6年算数科での授業において、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を行った。今後、他教科についても児童の実態や教材の特性を考慮しながら、N I Eが活用できる場を考えていきたい。

(2) 本年度のN I E活動をはじめる前の状況

本校は全校児童150名、全学年単級の8学級である。昨年度は研究指定校1年目としてN I E研究部会を立ち上げ、担当学年の各教科においてN I Eが活用できる場面を考え、実践し、蓄積してきた。対象学年の5年生は昨年度から主に総合的な学習の時間を中心に新聞を活用した活動を行ってきた。また他の学年でも新聞をより身近な存在として感じられるように、2学期からは朝の時間を使って「N I Eタイム」を行ってきた。

(3) N I E活動の狙い(育てたい力)

N I Eを活用し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を行うことで、各教科の資質・能力の育成を目指したい。

(4) 公開授業以外を含めたN I Eの取り組みの状況

N I Eを活用し、各教科の資質・能力を育成するには、まずは職員がN I Eについて知ることと、子どもたちにとって新聞をより身近な存在として感じられることが必要であると感じた。そこで、以下の取り組みを全校で行ってきた。

①N I Eの職員研修

職員全体に向けて、N I Eについての研修を行った。「N I Eについて」「新聞の使い方について」「本校でのN I Eへの取り組みのお願い」「N I Eタイムへの取り組みについて」「新聞ス

クラブのやり方について」などの内容について研修を行った。本年度異動してきた先生や、NIE部会でない先生方に本校でのNIEの取り組みについて知る機会となった。

②校長講話でのNIEの紹介

7月の校長講話で、NIEタイムでの各学年の取り組みや、校長先生自身が新聞記事を読んで、自分で取り組んだことや、子どもたちに願う姿について話をいただいた。

- ・「マスクを誤飲してしまうウミガメ」についての記事を読んで、「海のゴミと長野県は無関係なのだろうか？」という疑問をいただいたこと。
- ・疑問を調べるために、近所のゴミ拾いを始めた結果、近くの川にもマスクを中心としたゴミが多くあったこと。
- ・そこから、長野県のゴミも海のゴミになる可能性を感じたこと。
- ・NIEを通して、「自分で感じた疑問を調べたり、分かったことを発信したりする力」、「問題意識をもち、今自分ができることに取り組もうとする気持ち」を身につけてほしい。

子どもたちは、新聞から情報を得るだけでなく、疑問に感じたことや、考えたことをスクラップにする意欲を高めることができた。

③隔週1回、朝の時間を使って「NIEタイム」

隔週1回、朝の時間の15分間を使い『NIEタイム』と称して、全校で新聞を活用した学習を行った。内容としては、学習に関係する新聞記事、または教師が紹介したい新聞記事の紹介、新聞スクラップ、企業が配信している新聞ワークシートの活用、1分間スピーチなど、各学年の実態に合わせて取り組んだ。

低学年では信濃毎日新聞で毎週日曜日に掲載される「ユースてらす」を電子黒板に映したものを教師が読み、その記事について解説をし、子どもたち同士で意見交換を行った。中学年では同じく「ユースてらす」をもとに子どもたち同士で意見交換を行ったあと、その中から一人ひとりが気になる記事を選んでスクラップし、感想を記入してきた。高学年では家庭学習でスクラップしてきた記事について、スクラップノートに感想を記入したり、友だちと意見交流をしたりした。

このように各学年の子どもの実態に応じて、新聞に触れる機会を設けることにより、地域や世界の時事に触れ、自分事として考えることができた。

この他にも、保護者へ周知、新聞コーナーの設置を昨年度より継続して行った。

(5) 公開授業などの活動内容

I 第5学年 社会科「情報産業とわたしたちの暮らし」

1. 単元展開の概要(全9時間)

学習活動	指導上の留意点	評価規準
(1)単元を貫く問いをつくる <1時間>		
①身の回りにおけるメディアの種類を知る。 ②単元を貫く問いに対して予想を立てる。	出てくる情報メディアとして、テレビ、インターネット、新聞、ラジオが予想される。	【思考・判断・表現①】 【態度①】
単元を貫く問い 情報メディアは、どのように情報を集め、どのような工夫をして、情報を伝えているのだろうか。		

(2) 【出前授業】 <1時間> ※新聞		
①新聞の情報メディアとしての特徴。 ②新聞は、情報をどのように集め、私たちのもとへ届けているのか。 ③新聞をつくるための工夫や努力。	◆信濃毎日新聞社の方と打ち合わせを念入りに行う。 ◆次時以降の調べ学習への視点を明確にする。(特徴, 製作方法, 工夫や努力)	【知識・技能①】 【思考・判断・表現①】
(3) 調べる【班ごと】 <2時間> ※テレビ, インターネット, ラジオ		
①メディアごと, 特徴を調べる。 ②メディアごと, 情報をどのように集め, 私たちのもとへ届けているのかを調べる。 ③メディアごとの, 工夫や努力について調べる。	◆インターネットや図書館の本を利用して, 班ごと調べる。発表できるように用意も進める。	【知識・技能①】 【思考・判断・表現①】
(4) 全体で考える <2時間>		
①(2)(3)で調べたことを全体で共有する。 ②それぞれのメディアのメリットを考える。 ③それぞれのメディアのデメリットを考える。 ④それぞれのメディアを使う時に気をつけることを考える。	◆メディア同士の比較ではなく, メディアごとメリットやデメリットを考えるようにする。比較等は行わない。	【知識・技能②】 【思考・判断・表現②】 【態度②】
(5) 情報の受け手として <2時間>		
①どの情報メディアがどんな場面で活用することができるのか個人で考える。 ②全体で共有し, 大まかな括りでまとめ, ふり返りをする。【本時】	◆「テレビではどんな情報が欲しいか」などメディア毎に考える。 ◆メディアの特性やメリットにかえるような仲間分けをする。	【態度②】
(6) まとめる <1時間>		
①単元を貫く問いに対する自分の考えをそれぞれの共通点を踏まえながらまとめる。		【知識・技能②】 【思考・判断・表現②】

2. 学習指導案

①本時の主眼

情報メディアの特徴や製作過程, 働く人の工夫や努力を学んだ子どもたちが, 各情報メディアはどんな時になにを選んで使っているのかを分類する場面で, お互いの考えを大まかな括りでまとめたり各情報メディアの特徴やよさから考えたりすることを通して, 情報の受け手として自ら情報メディアを選択して情報を得ようとしている。

②指導上の留意点

- ・ ICT 機器(児童用端末)を活用し, リアルタイムで児童の考えが整理できるようにする。

③本時の展開

【前時からの学習問題】各メディアはどんな時や場面で使っているのだろう。

- ・前時、付箋に書いた内容を確認し、追究の見通しをもち、学習課題を設定する。

【学習課題】調べてきたことを、表に分類しよう。

- ・情報メディアや場面ごとにマトリックス表に分類する。
- ・分類した表から班ごとに共通点を考え、全体で発表し、まとめる。
- ・新聞の号外(災害時等)を紹介し、新聞も迅速な情報提供をすることがあると伝える。台風19号が来た際、長野市の避難所など16カ所で配布された号外を扱う。
- ・本時のまとめをする。

	朝	昼	夜(夕方)	すきな時(自由時間)	車に乗っている時
テレビ	朝のニュース番組を見る。天気予報はテレビで確認する。	昼のニュース番組を見る。天気予報はテレビで確認する。	夕方のニュース番組を見る。天気予報はテレビで確認する。	夕方のニュース番組を見る。天気予報はテレビで確認する。	夕方のニュース番組を見る。天気予報はテレビで確認する。
新聞	朝の新聞を読む。災害時の号外は速報性が高い。	朝の新聞を読む。災害時の号外は速報性が高い。	朝の新聞を読む。災害時の号外は速報性が高い。	朝の新聞を読む。災害時の号外は速報性が高い。	朝の新聞を読む。災害時の号外は速報性が高い。
インターネット	朝のニュースをインターネットで確認する。	朝のニュースをインターネットで確認する。	朝のニュースをインターネットで確認する。	朝のニュースをインターネットで確認する。	朝のニュースをインターネットで確認する。
ラジオ	朝のラジオ番組を聴く。災害時の緊急情報はラジオで確認する。	朝のラジオ番組を聴く。災害時の緊急情報はラジオで確認する。	朝のラジオ番組を聴く。災害時の緊急情報はラジオで確認する。	朝のラジオ番組を聴く。災害時の緊急情報はラジオで確認する。	朝のラジオ番組を聴く。災害時の緊急情報はラジオで確認する。

「(各メディア)は～の時に使える。」

「テレビは映像を交えて、早く情報が欲しい時に…」

「インターネットは知りたいことがあったり時間があったりする時に…」

「新聞は正確で、詳しい情報を自分のペースで知りたい時に…」

「ラジオは緊急時や手の放せないときに…」

- ・本時のふり返しをする。

3. 本時の成果と課題

- ・子どもたちが用意した付箋は、これまでの既習事項をもとに自分や家族の生活経験から得られた気づきがたくさんつまっており、よい学習材となった。
- ・班で考える時に、これまで学習した用語や知識を使って話し合いをする姿がみられた。
- ・マトリックス表に4種のメディアごとに色分けをしてまとめることで、どんな時にどのメディアが活用されているかが一目でわかった。
- ・台風被害の号外を取り上げたことにより、新聞は速報性という点でデメリットがあると捉えていた子どもたちにとって、新たな気づきを促すことができた。
- ・活動内容が多過ぎて、共通点を考え、まとめるところが十分にできなかった。班ごとに担当のメディアを決めたり、場面を絞って考えさせたりすればよかった。
- ・情報量が多すぎたので、マトリックス表の横軸を「信頼性」「速報性」「詳細性」ごとに分けて考えてもよかった。
- ・A児の新聞について書かれた付箋には「地域のニュースやおくやみ欄など身近な出来事を知る」と記されていた。新聞が持つ地域性という新たな気づき、新たな視点を持って情報メディアの見方を深めるために、授業で取り上げればよかった。
- ・最後のふりかえりの場面で、「使う場面を考えてメディアを使っていきたい」など、具体的に欠ける振り返りを書く子どもが多く見られた。場面を絞って「この時にはどのメディアから情報を得るか」と問いかけることにより、「自分だったらこういう理由で〇〇を使う」と自分事として具体的に考えることができ、さらに追究を深めることができた。

Ⅱ 第2学年 算数科「長さ」

①本時の主眼

10 cmの量感をもとに身のまわりのものの長さを見当づけたり測ったりした子どもたちが、生活の中のcmを探す場面で、新聞記事に載っているcmを調べ、写真を見たり、紙テープで表したりすることを通して、cmの大きさを量感を伴って理解することができる。

②授業の様子

【学習課題】

新聞記事にあるcmをさがして、どれぐらいの大きさか、紙テープであらわしてみよう。

- ・新聞記事に載っている人の身長や動物の体長、物の長さなどを、班ごとに30 cmものさしと1mものさし(100 cmものさし)を使って測り、紙テープで表す。
- ・全体追究で班ごとに測った紙テープを発表し、比べる。

③本時の成果と課題

- ・身近に感じられる記事を選ぶことで、子どもたちは興味をもち、主体的に学ぶことができた。
- ・新聞上だけでは長さの予想がつきにくいのが、紙テープで表すことによってイメージがもて、「このぐらいの長さか」「でかいな」などの声が上がっていて、量感がつかめていた。
- ・身長を表す紙テープは縦にして見せることで、自分の身長とも比べられ、長さをより実感することができた。
- ・30 cmを超える長さを測る時には、30 cmものさし2本を合わせて測る、100 cmを超える長さを測る時には1mものさしを使って測るなど、長さに合わせた道具の選定ができていた。また、ものさしを合わせることで次時の長さの計算にも繋がった。
- ・故意に小数の入った長さの記事を入れた。子どもたちはすんなり読めてはいたが、測る際に困った様子が見られた。個人追究の場面で扱うのではなく、全体追究の場面で扱えばよかった。

Ⅲ 第6学年 算数科

①本時の主眼

大谷翔平の総額7億ドルの契約金を、過去最高の円高だった2011年の1ドル75.58円、2006年の1ドル118.93円、2023年11月の1ドル151.74円それぞれで日本円に換算した場合について計算してみることを通して、日常の事象を数理的に捉え、算数を活用して問題を解決しようとしている。

②授業の様子

- ・大谷翔平の総額7億ドルの契約金の記事にいろいろな円の表示がされていることから、円相場について知り、今現在、2011年、2006年の1ドルの相場を紙面で確認する。
- ・2011年の1ドル75.58円、2006年の1ドル118.93円、2023年11月の1ドル151.74円それぞれで日本円に換算した場合について、電卓を使って計算する。
- ・小グループで比較して分かったことを考え合い、発表する。

③本時の成果と課題

- ・大谷選手の大型契約の課題は、子どもたちにとって知的好奇心を高める課題であり、「いくらになるか知りたい」「比べてみたい」と最後まで意欲的に学習に取り組むことができた。

- ・この授業で、円相場を確認する際に信毎データベースの記事を活用した。新聞の持つ正確な情報という信頼性、昔の記事を見返すことのできる記録性という点を生かすことができた。
- ・算数科として新聞を活用できる題材をもっと増やしていく。

(6) 1年間取り組んだ成果と課題

1. 「主体的な学び」の実現について

- ・5年社会科では、台風19号の際の信濃毎日新聞の号外を取り上げることにより、B児の振り返りには、「新聞やラジオはいらないと思っていたけど、新聞もラジオも災害があった時に使える」と書いてあり、自身の考えの変容を自覚できる場面となった。
- ・6年算数科では、「大谷翔平の総額7億ドルの契約金」というタイムリーな記事を問題にすることにより、桁の大きい計算にも粘り強く取り組むことができた。また、「他の選手の年収も調べてみたい」と振り返る子どもの姿があった。
- ・2年算数科では、新聞記事にあるcmを探して紙テープであらわす活動で、故意に小数の入った長さの記事を入れた。小数の数について実際に長さを表すことはできなかったが、B児の振り返りには「早く3年生になって小数の学習をやりたい」と書いてあり、新たな問いを見いだすきっかけとなった。

2. 「対話的な学び」の実現について

- ・5年社会科では信濃毎日新聞社の出前授業を活用して、新聞記者の方から直接話を伺うことができた。また、家にテレビがない子や新聞を取っていない家庭の子も、友だちが調べてきた家庭でのメディアの活用のされ方を知ることにより、各メディアの共通点を見いだすことができた。

3. 「深い学び」の実現について

- ・5年社会科では、全体追究の場面で、各メディアの共通点を話し合う際、教師の「朝はインターネットじゃだめなの？」などの問いかけによって、なぜその場面ではそのメディアが活用しているのかをより明確にし、考えを深めることができた。
- ・2年算数科では、ものさしを合わせて長さを測った経験から、長さも足したり引いたりすることができることを実感することができた。
- ・6年算数科では、電卓の桁が足りないことから、まず7億ドルを7として計算し、後で0(億)を付け足すようにしていた。
- ・新聞記事という日常の事象について、各教科の見方・考え方を働かせ、それらと既習の知識を結合して思考や態度が変容する「深い学び」を実現することができた。

本年度は主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を、主に社会科、数学科での授業を考えてきた。他教科についても児童の実態や教材の特性を考慮しながら、NIEが活用できる場を考えていきたい。